

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>全体指標の項目1「自分にはよいところがあると思う」は79.3%、項目2「先生はあなたのよいところをほめてくれる」は80.9%であった。目標達成には至らなかったものの、昨年度より伸びを見せた。また、重点目標①②③については、特に重点②「桜岡スタイル」での授業実践、重点③道徳科や人権教育の充実、悩みを抱える子への組織的対応についての教職員の評価が大きく伸びており、個々の職員が重点目標を意識した共通実践ができたことと評価している。保護者評価においても、重点②志を高める教育、重点③道徳教育、教育相談についての伸びは顕著である。今後は「自己有用感」を高める取組をより深化・徹底を図ること、さらに、重点①効率的な業務遂行のため、より一層の業務改善が課題である。</p>
2 学校教育目標	<p>自らを友達を大切に、未来に向けて花開こうとする桜っ子の育成</p> <p>— 日々の積み重ねを大切に学校づくり —</p>
3 本年度の重点目標	<p>「いのち・心はひとつ」「ひとつずつの積み重ね」を胸に、一人一人の教職員が、学校教育目標の実現に向けての意識を高く持ち、子供の「自己有用感」を高める取組を推進する。</p> <p>☆全体指標「自分には、よいところがあると思う」80%以上、先生はあなたのよいところをほめてくれる85%以上</p> <p>《教育活動推進のための3つの重点》①教職員の協働意識・体制の向上 ②自己実現を図るための「分かる授業」、「生徒指導の三機能」の実践 ③子どもの困り感に寄り添う支援、やさしい子を育む指導の充実</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○校内研究を軸とした主体的・対話的で深い学びの展開	○「桜岡スタイル」での授業の実践や、児童について力を常にふり返り授業改善に努めた。」と回答した教職員80%以上 →学校評価教職員アンケート	○全ての授業で、「やり方を決めよう」「かんがえよう」「たかめ合おう」の合い言葉にした「桜岡スタイル」での授業の実践に取り組む。 ○一人一台端末を、つけない力を考え、どの段階でどのように活用するか教師が意図をもって使用する。 ○一人一台端末の使用方を職員間で共有したり、ミニ研修会を行ったりし、一人一台端末を有効に利用する。					※かこい子プロジェクト ・研究主任
	○児童の基本的な学習習慣の育成	○「立腰」と「かいつお」を共に守れた」と回答した児童80%以上 ○学習の終わりに、「学習の振り返りができている」と回答した児童70%以上 →学校評価児童アンケート	○学習規律定着のために「立腰」を合い言葉に学習の構えをつくる。 ○「かいつお」を合言葉に、学習の準備を行い、速やかに学習に取りかかることができるようにする。 ○学習の終わりに、「ふりかえ〜くん」を用いて振り返りの視点を示し、学んだことを自分の言葉で振り返り、表現できる児童の育成を目指す。					※かこい子プロジェクト
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」と答えることのできる児童80%以上。	○「心を考える日」に人権教室を3回、人権集会1回を実施することにより、人権週間の充実を図る。 ○道徳教育やいのちの学習を通して、自他の生命を尊重する心を育てる。					※やさしい子プロジェクト ・人権・同和教育担当 ・教育相談担当 ・道徳教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	○いじめの認知・認知の組織的対応マニュアルの共通理解を図る。 ○いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。					※たくましい子プロジェクト ・生活指導担当
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	○「生徒指導の3機能」を意識した、決めさせ、考えさせ、認め合う授業・活動の実践 ○学級活動等の時間の中で、「出番」「役割」があり、「承認」される授業・活動を創造し、実践を積み重ねる。 ○様々な活動に対する目標や振り返りをキャリアパスポートを活用して行う。					※かこい子プロジェクト ・児童会活動担当 ・委員会活動担当
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒65%以上	○共通(学級・学年間交流)の時間を計画的に実施し、外で遊ぶ楽しさを実感させる。 ○自力登下校や休み時間に遊ぶことを促すような声をかけ、体を動かす習慣化を意識させる。					※たくましい子プロジェクト ・体育主任 ※やさしい子プロジェクト ・異学年交流
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・年間において月の平均時間外在校等時間45時間以内を遵守する。 ・全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。					・教頭 ※校内労働安全衛生委員会(多忙化対策委員会)
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育に対する教職員の知識・理解の更新、向上	○見守りたい子の情報共有を児童の支援に生かせたと回答した教員が90%以上  ○多様な学びの場を保障できたと回答した教員が80%以上	○特別支援教育の研修を講師を招聘して行い、教員の専門性を高める。 ○特別支援学級を学年グループに配置し、学年の連携を図る。 ○年度初めに特別支援教室の環境を整える。校内支援委員会を通して、多様な学びの場を提供し、個に応じた支援をする。					
○教育相談体制の構築	○悩みを抱える児童の困り感を共有し、対応できる体制の構築	○「心配なことや困っていることがある」と回答した児童が70%以下	○認知した児童の状況について管理職や教育相談担当、担任等と情報共有を行う体制を整備、構築する。 ・すっきりここアンケートの実施(年3回) ・「見守りたい子」の共有 ・SC、SSW、SSP、支援センター等との連携 ・困り感を持つ児童が過ごす部屋の設置					※やさしい子プロジェクト ・教育相談担当
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望								